

令和2年度事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか130年であるが、その130年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を發揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、130年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年(1890)浄土宗を母胎として創立された。以来130年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、長い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治 23 年 (1890 年) 大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
明治 34 年 (1901 年) 学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更
明治 39 年 (1906 年) 中学校と同等の認定
明治 45 年 (1912 年) 財団法人上宮中学校設立許可
昭和 4 年 (1929 年) 鉄筋本館竣工
昭和 10 年 (1935 年) 定員 1250 名認可 鉄筋新校舎の建設案成る
昭和 14 年 (1939 年) 新校舎 (現 2・3・4 号館) 竣工
昭和 22 年 (1947 年) 新制上宮中学校発足
昭和 23 年 (1948 年) 新制上宮高等学校発足
昭和 26 年 (1951 年) 学校法人上宮学園へ組織変更認可
昭和 36 年 (1961 年) 校祖 750 年遠忌式
昭和 38 年 (1963 年) 高等学校志願者 5259 名に達す 5 号館竣工
昭和 42 年 (1967 年) 中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工
昭和 44 年 (1969 年) 太子町校舎高 1 授業開始
昭和 49 年 (1974 年) 高 2 2 コース制実施
昭和 54 年 (1979 年) 太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
昭和 56 年 (1981 年) 総合体育館竣工式 90 周年記念式
昭和 59 年 (1984 年) 上宮高等学校 6 号館竣工
昭和 60 年 (1985 年) 上宮中学校復活開校 (於、太子町)
上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工
昭和 63 年 (1988 年) 上宮高等学校太子町学舎開設
平成 1 年 (1989 年) 上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
平成 2 年 (1990 年) 創立 100 周年記念式典
平成 3 年 (1991 年) 上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
平成 5 年 (1993 年) 上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校 (於、天王寺)
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
平成 22 年 (2010 年) 上宮学園創立 120 周年記念式典
平成 23 年 (2011 年) 校祖 800 年大遠忌
上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
平成 24 年 (2012 年) 上宮太子高等学校男女共学化
平成 26 年 (2014 年) 上宮高等学校 3 年 平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典
平成 30 年 (2018 年) 上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更
令和 元年 (2019 年) 南グラウンドに新校舎竣工 上宮学園中学校と上宮高等学校 新校舎へ移転
令和 2 年 (2020 年) 旧校舎解体 グラウンド竣工

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号
 全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子 1053
 全日制 普通科 3 年特進コース・3 年総合進学コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号
 特進コース・G コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合 計	65,061	49,679

5. 入学定員

名 称	学則定員（各 3 学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	480
合 計	3,840

6. 生徒数・学級数（令和 2 年 5 月 1 日現在）

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	658	17
	2 年	565	16
	3 年	640	18
上宮太子高等学校	1 年	191	5
	2 年	181	5
	3 年	189	6
上宮学園中学校	1 年	112	3
	2 年	100	3
	3 年	90	3
合計		2726	76

7. 役員・評議員（令和2年4月1日現在）

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）監事2名
理事長 田中裕史（上宮学園長）
理事 山縣真平（上宮学園中学校・上宮高等学校長）
寺澤久弥（上宮太子高等学校長）
甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）
井桁雄弘（総本山知恩院責任役員 執事長）
川中光教（浄土宗責任役員 宗務総長）
山北光彦（浄土宗大阪教区長）
監事 小笹憲雄・毛利虎之助

ii 評議員（定員 15名）

評議員 13名（うち、理事兼任7名）

殿井鉄夫（法人職員）
松井保（法人職員）
原田和成（法人職員）
横倉廉幸（卒業生）
神田真晃（卒業生）
田中裕史（上宮学園長）
山縣真平（上宮学園中学校・上宮高等学校長）
寺澤久弥（上宮太子高等学校長）
甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）
川中光教（浄土宗責任役員 宗務総長）
山北光彦（浄土宗大阪教区長）
井桁雄弘（学識経験者）
水谷川源昇（学識経験者）

8. 教職員（令和2年5月1日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	79	10	58	26	173
上宮学園中学校	23	1	7	2	33
上宮太子高等学校	36	2	24	10	72
合計	138	13	87	36	278

II.事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

創立 130 周年を迎えるにあたり、その記念事業の一つとして、旧南グラウンドに新校舎を建設し、旧 7 号館を接続する。さらには、旧 1 号館・旧 2 号館・旧 3 号館・旧 5 号館を解体し、新たにグラウンドとする。また、総合体育館・旧 4 号館・旧 6 号館を主に体育施設として改修する。

昨年、8 月末より新校舎に移転し、新たな上宮学園中学校、上宮高等学校の教育活動が始められる。今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

1. 法人

令和 2 年度 第 1 回理事・評議員会

日時 令和 2 年 5 月 28 日（木）

会場 評議員会：多目的室 理事会：保護者会室

議案第 1 号 監事及び評議員の補充選出について

議案第 2 号 令和元年度事業報告書について

議案第 3 号 令和元年度決算（案）について

議案第 4 号 令和 2 度事業計画について

議案第 5 号 令和 2 度予算（案）について

議案第 6 号 上宮太子中学校廃校に伴う寄附行為変更について

議案第 7 号 令和 2 年度特待生について

議案第 8 号 その他について

令和 2 年度 第 2 回理事会・評議員会

日時 令和 2 年 12 月 24 日（木）

会場 評議員会：多目的室 理事会：保護者会室

議案第 1 号 令和 2 年度第 1 回補正予算（案）について

議案第 2 号 令和 2 年度中間報告（財務面・教務面）について

議案第 3 号 上宮高等学校学則（カリキュラム）訂正について

議案第 4 号 その他について

令和 2 年度 第 3 回理事・評議員会

議案日時 令和 3 年 3 月 30 日（火）

会場 シェラトン都ホテル大阪

議案第 1 号 令和 2 年度第 2 回補正予算案について

議案第 2 号 令和 3 年度事業計画について

- 議案第3号 令和3年度予算案原案について
 議案第4号 法人諸規定の制定について
 議案第5号 上宮学園中学校学則（カリキュラム）訂正について
 議案第6号 令和2年度近況報告について
 議案第7号 その他について

2. 上宮高等学校

i 執行部関係【上宮学園中学共】（令和2年度）

校長	山縣真平	中学教務部長	橋本宗隆
副校長	殿井鉄夫	生活指導部長	伊地田龍也
高校教頭	栗栖有文	進路指導部長	畑中広
中学教頭	末金和夫	入試対策部長	細川貴司
高校教務部長	西岡信教		

【基礎データ】

生徒数（年初数）

- 1年生 658名、17クラス、クラス平均生徒数38.7名
 2年生 565名、16クラス、クラス平均生徒数35.3名
 3年生 640名、18クラス、クラス平均生徒数35.6名
 合計1863名、51クラス、男子1159名、女子704名、男女比62：38

転退学者等

- 1年生 退学者10名（男子7名、女子3名）、うち転学者8名（男子6名、女子2名）
 2年生 退学者7名（男子5名、女子2名）、うち転学者6名（男子4名、女子2名）
 除籍者1名（男子1名 死亡による）
 3年生 退学者3名（男子2名、女子1名）、うち転学者1名（男子1名）
 合計 退学者21名（男子15名、女子6名）、うち転学者15名（男子11名、女子4名）
 昨年度比+4名、全生徒数に対する割合は1.1%（全国平均1.5%）

教員数

- 合計151名
 専任教諭66名、常勤教諭13名、常勤講師11名、非常勤講師61名
 定年退職者 なし

ii 広報関係

○入試結果

志願者数 1,956 名、受験者数 1,928 名
合格者数 1,870 名（専願 379 名・併願 1,491 名）
入学者数 614 名

*2020 年度入試結果

志願者数 2,190 名、受験者数 2,168 名
合格者数 2,038 名（専願 408 名・併願 1,630 名）
入学者数 595 名

○入試説明会

自校実施 4 回で 1,825 組の受験希望者が参加、
（前年度参加者数 2,788 組から 963 組減。）
※説明会後の個別相談は実施せず、オンライン個別相談会を実施（65 組の参加）

○塾対象説明会

シェラトン都ホテル大阪での開催。（1 塾 1 名での参加。座席の間隔をあけて密を避けて実施。）前年と同様に 9 月の実施で 200 名/200 塾、の参加。（前年度 331 名/292 塾）

○私学展

9/11（金）・9/12（土）・9/13（日）で開催（国際会議場・リーガロイヤルホテル）
（昨年までは二日間の開催・天満 OMM ビル）
ブース相談件数は 9/11 夕刻からの説明会 58 組
9/12 が 136 組（前年度 1 日目 185 名）9/13（日）が 129 組（前年度 2 日目 202 名）
今年度は例年とは違って搬入日の夕刻からの説明会があり、入場制限があったが
昨年度の相談件数をあまり下回らず。男子よりも女子の相談件数の方が若干増加。
担当人員は 9/11（金）が 9 名・9/12（土）が 15 名・9/13（日）が 17 名
（メインブース 2 名、別会場ブース 3 名、案内 4 名で対応。）

○2020 年度 総括

中学受験の風物詩ともいえる塾講師の先生方による「校門前激励」も今年は遠慮してもらうことになった。コロナ禍の影響で、塾・中学校への訪問など渉外活動が思うように出来ず、学校見学の中止や自校での説明会の人数制限など、受験生や保護者にもうまくアプローチが出来ず、結果的に入学者数は予定の数をクリアした。しかし、今後の入試に 2021 年度入試の対応がどのような形で影響してくるのか、状況に応じて適切な対応するにはどうすればよいか課題も山積みである。

iii 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

令和2年度年度卒業生(共学8期生)は637名(昨年度660名)。学年全体の現役合格率(大学・短期大学・専門学校合格)は94.3%(昨年91.0%、一昨年90.7%)で4年連続の上昇。共学化以来の8年間で最も高い率であった。

2. 令和3年度入学入試を取り巻く環境について

1) 大学入試改革による大学入試区分の名称変更

①A0入試⇒ 総合型選抜

②推薦入試⇒ 学校推薦型選抜

(スポーツ推薦入試・連携指定校制推薦入試・公募制推薦入試)

③一般入試⇒ 一般選抜

④「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に呼称変更

2) 「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」へ

①英語リスニングの配点が50点/250点(20%)から100点/200点(50%)へ

②「数学I・数学A」の試験時間が思考力を問う設問導入により60分から70分へ

③第1日程・第2日程・特例追試の3段構えに。本校生徒は全員が第1日程受験。

④マスク着用の必須化 等

3) コロナウイルス感染拡大の大学入試などへの影響

①4月～6月の本校の休校と、大学オープンキャンパスの中止

→懇談の遅れ・志望校決定の遅れ

②総合型選抜(旧A0)の日程後ろ倒し(9/119/15～)

③専門学校への志願の早まり

④先行き不安から年内入試(推薦入試)の志願者の増加傾向

*本校では「連携・指定校制推薦入試」での出願が文系・理系ともに50%を超える。

*国公立型コースの私立大学推薦入試への参入傾向が高まる

⑤一部国公立大学で「個別試験」中止(例:横浜国立大・信州大など)

⑥入試の「面接試験」をオンラインで実施(例:摂南大の推薦入試)

⑦入試の「小論文」を本校で監督を行って実施(明治大学経済学部の指定校制推薦入試)等

4) 私立大学全体の志願者の減少と「補欠からの繰り上げ合格」および「追加合格」の

拡大。結果的に私立大学は易化。本校の学校推薦型選抜と一般選抜での私立大学合格者も全体的に増加した。(4の2表)

例：「近畿大学」：複数回の繰り上げ合格・追加合格を発表（最終 3/30）！

- ①公募制推薦で 136 名
- ②前期 A 日程・B 日程と共通テスト利用方式で 2,314 名
- ③生物理工学部は後期入試の後「公募制推薦入試」までさかのぼって追加合格

「関西大学」：共通テスト利用方式以外の「後期日程」廃止。

2/27 に第 1 回目 1,599 人、3/25 に第 2 回目 547 人の繰り上げ合格発表

等、「補欠からの繰り上げ合格」「追加合格」が昨年以上に増え、本校生徒もその恩恵に浴した。一方で、3 月末に「繰り上げ・追加合格」の連絡がきて困惑するという声もあった。また担任としては、最後の受験を「追加合格」の出る入試区分で勧めたいところだが、どれに適用されるかの予測が立たなかった点に、受験指導の難しさがあった。

3. 本校の令和 2 年度卒業生の最終進学先の状況

令和 2 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
637	549	7	35	4	42
割合	86.2%	1.1%	5.5%	0.6%	6.6%

*「就職者」内訳：海上自衛隊・(株) イエローハット・(株) アイ・ステーション

*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

平成 31 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
660	528	16	36	3	77
割合	80.0%	2.4%	5.5%	0.5%	11.7%

*「就職者」内訳：皇宮警察・警視庁・海上自衛隊

*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

4. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 35 名（昨年度 41 名） *現役・過年度生を合わせた大学別実人数

①国立大 21 名（うち現役 16 名）

②公立大 14 名（うち現役 13 名）

【平成 30 年度～令和 2 年度の国公立大学合格状況 比較】

*現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

国公立大学合格者								
令和 2 年度			H31 年度			H30 年度		
(卒業生数 637 名)			(卒業生数 660 名)			(卒業生数 663 名)		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	5	1	和歌山大	4	1	和歌山大	9
	大阪教育大	5		大阪市立大	4	2	大阪府立大	7
2	三重大	3	3	大阪府立大	3	3	大阪教育大	2
	大阪府立大	3	4	大阪大	2		岡山県立大	2
5	大阪市立大	2	5	神戸大	2	5	大阪大	1
	奈良県立大	2		福井大 (医)	2		九州大	1
7	帯広畜産大 (獣医)	1		鳥取大	2		神戸大	1
	滋賀大	1	8	北海道大	1		奈良女子大	1
	信州大	1		東京農工大	1		奈良教育大	1
	愛媛大 等	1		九州大 等	1		信州大 等	1
	合計実人数	35		合計実人数	41		合計実人数	39
	うち現役実人数	29		うち現役実人数	28		うち現役実人数	35
	国公立型クラス現役生数	148		国公立型クラス現役生数	126		国公立型クラス現役生数	147

2) 私立4年制大学 大学別合格者実人数 832名（うち現役 737名）卒業生 637名

*（昨年度 794名 うち現役 705名）卒業生 660名

【平成30年度から令和2年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 *現役生のみ ^の の大学別合格実人数で比較								
令和2年度			H31年度			H30年度		
卒業生数 637名			卒業生数 660名			卒業生数 663名		
1	近畿大	79人	1	近畿大	60人	1	近畿大	64人
2	摂南大	61	2	摂南大	52	2	摂南大	57
3	関西大	46	3	関西大	43	3	関西大	48
4	龍谷大	53	4	龍谷大	38	4	龍谷大	40
5	大阪工業大	28	5	追手門学院大	26	5	大阪工業大	28
6	桃山学院大	27	6	大阪経済大	24	6	追手門学院大	22
7	京都産業大	22	7	桃山学院大	21	7	桃山学院大	21
8	神戸学院大	19	8	甲南女子大	19	8	同志社大	19
9	立命館大	18		帝塚山大	19	9	大阪経済大	15
10	同志社大	17	10	大阪工業大	18		武庫川女子大	15
	甲南大	17		関西外国語大	18	11	甲南大	14
12	追手門学院大	16	12	大阪産業大	17		帝塚山大	14
13	大阪芸術大	15	13	甲南大	17	13	関西外国語大	12
	甲南女子大	15	14	京都産業大	16	14	大阪大谷大	11
	武庫川女子大	15	15	武庫川女子大	14		四天王寺大	11
16	大阪経済大	14	16	大阪電気通信大	13		甲南女子大	11
17	同志社女子大	12	17	同志社女子大	12	17	同志社女子大	10
	佛教大	12		阪南大	12		関西外国語短期大	10
	大阪電気通信大	12		畿央大	12	19	和歌山大	9
	関西外国語大	12	20	大阪芸術大	11		立命館大	9
21	関西学院大 等	11		四天王寺大・大和大	11		関西学院大 等	9
	合計実人数	737		合計実人数	705		合計実人数	664
	卒業生数	637		卒業生数	660		卒業生数	663

参考：連携・指定校制推薦入試「被推薦者」数の推移

年度	共学	合計	%	文系	%	理系	%
R2	8期	229	50.2	151	50.2	78	50.3
H31	7期	180	35.9	138	36.0	42	35.6
H30	6期	193	39.3	137	40.2	56	37.3
H29	5期	154	30.3				
H28	4期	126	24.6				
H27	3期	157	28.9				
H26	2期	160	32.4				
H25	1期	204	29.8				

*%はプレップ・一貫プレップの合計在籍人数に対する割合。

3) 私立短期大学合格者 16名（うち現役13名）

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和2年度	平成31年度	平成30年度
16	31	28
(うち現役13)	28	26

4) 専門学校合格者 41名（うち現役39）

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和2年度	平成31年度	平成30年度
41	46	50
(うち現役39)	44	45

5. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

*あらゆる事業が「新型コロナウイルス感染拡大」の影響を受けた。

*本校も4月から約3か月間の休校となり、その間生徒の学習・進路指導支援に忙殺された。

- 1) ①休校期間中に「スタディサポート」を在宅実施し、マークシートを郵送で回収した。全教員の当番制でその仕分けと確認作業を行った。②また、高3生の第1回記述模試も休校期間に在宅実施した。学力測定の公平性を担保するために、高3プレップコースのみ、順位付けのための「特別考査(実力考査)」を7月に異例の実施をした。また、第2学期以降の河合塾「全統模試」は公開会場での実施が中止になったため、国公立コース担当者によって全て校内で実施した。
- ③高校各学年の「進路オリエンテーション」「進路説明会」は講堂に一部クラスの生徒、残りはライブ配信して教室での視聴とした。また保護者には録画の動画配信を行った。
- ④主な連携大学の指定校制推薦入試の「夏期必修プログラム」が中止となった。また一部の大学はオンラインで実施した。

- 2) 卒業生執筆による「合格体験記―後輩につなぐ言葉―」を発刊。高3生徒には休校期間中に教材と共に郵送配布し、高1・高2生には第3学期の進路HRの教材として活用した。
- 3) 放課後の学習支援事業「Uゼミ」が開講7年目となったが、第1学期のUゼミは学校休校のため不開講となった。登校開始後に特別な学習支援事業として、高3生徒を対象「大学合格応援講座」を開講し、希望者対象に無料で開講した。
- 4) Uゼミの「英検合格講座」は中1から高3までの希望者を対象として、土曜日放課後に通年で3期に分けて開講している。年々受講者を増やしているが、本年度は第1回目が休校期間中にあたり中止となり、第2学期から2回実施した。
- 5) 「オンライン英会話」は延べ約80名の生徒が受講していたが、事業者「(株)スクールTOMAS」の本事業からの撤退により、3月末で契約解除となった。新たに「(株)ノバホールディングス」と新規契約を行い、次年度からも事業の継続が決まった。

6) 「連携・指定校制推薦入試」に合格の高3生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。

①「連携大学の先生による入学前特別講義」

連携協定を締結している甲南大学経済学部の教授2名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を2日間の午前中で実施した。

②「エンパワーメントプログラム」

本年度は令和2年2月15日～20日に実施。参加生徒240名を前半123名、後半117名に分け、更にその中で会場を2か所に分けた。平成30年度と31年度はそれぞれ上宮太子高校の生徒1名を受け入れたが、本年度は参加がなかった。20ヵ国24名の国際学生と外国人ファシリテーター(2名)が来校して、本校生徒の指導にあたった。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、感染を防止するために、以下の配慮を講じて実施した。

- ・「ホームステイ」受け入れの中止。
- ・生徒は毎朝の検温を欠かさず、当日に体温が37.5℃を超えた時など体調が優れない場合は無理に登校しない。
- ・マスクは必ず飛沫防止効果の高い「不織布製マスク」を着用させる。
- ・会場での講師と生徒、また生徒の座席を空けて距離を教室以上に十分にとる。
* 机の配置を「V字」・「L字」型に配置して正対面にならないように工夫した。
- ・手指消毒用に出入口、および各グループの机ごとに消毒液ボトルを設置。
- ・文房具・ドアノブ・机等の消毒。
- ・約1時間ごとの会場の換気。および通気に配慮する。

また、エンパワーメントプログラムのスタッフについても、

- ・国際学生(留学生)は元々日本の大学に留学している国内在住の学生から選抜。
- ・近隣の府県の国際学生を優先的に手配する。
- ・プログラム開始前3週間以内に渡航歴がないこと。

- ・プログラムの開始2週間前から毎朝の検温を義務付け、うち2日以上微熱（37.5℃以上）あれば不参加とし、メンバーの交代を行う。
- ・マスクの着用。毎日の検温の実施。手指消毒・うがいの励行を指導。
- ・グループワークでは距離を十分に保ち、握手、ハイタッチ、ハグは禁止する。
- ・食事中における本校生徒との交流は禁止し、講師控室の自席で食べてもらう。

等の感染対策と指導を徹底して実施した。結果、プログラム中における陽性者は出なかった。

7) 本年度をもって大阪府私立高等学校（私進研）の役員（会計）任期（2年間）満了となった。

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校長	寺澤 久弥	生徒指導部長	米田 文昭
教頭	淵 昭嘉	進路指導部長	漁野 篤史
教務部長	田中 良和	入試対策部長	宮本 卓弥

【基礎データ】

生徒数（年初数）

1年生	191名	5クラス	クラス平均生徒数	38.2名
2年生	181名	5クラス	クラス平均生徒数	36.2名
3年生	189名	6クラス	クラス平均生徒数	31.5名
合計	561名	14クラス	男子328名	女子187名
			男女比	64:36

転退学者等

1年生	退学者7名（男子4名・女子3名）	うち転学者6名（男子3名・女子3名）
2年生	退学者3名（男子3名・女子0名）	うち転学者3名（男子3名・女子0名）
3年生	除籍者1名（女子1名 死亡による）	
合計	退学者11名（男子7名・女子4名）	うち転学者9名（男子6名・女子3名）
	昨年度比+1名	全生徒に対する割合は2.0%（全国平均1.5%）

教員数

合計	65名
専任教諭	25名
常勤教諭	13名
常勤依託（ALT）	1名
非常勤講師	26名

ii 広報関係

① 学校説明会等行事

行事名	実施日	参加組数	増減
オープンキャンパス （UTフェスタ）	10月31日（土）	241組	+66組
第1回入試説明会	10月4日（日）	62組	-8組
第2回入試説明会	11月21日（土）	167組	-65組
第3回入試説明会	12月6日（日）	159組	+3組
直前対策入試説明会	12月13日（日）	167組	-36組
合計		796組	-155組

○総評

- ・コロナ禍における説明会であったが、内容においては、各教科からの説明も創意工夫がなされて充実したものといえる。学校見学では、在校生の協力を得て、「学校見学ツアー」を実施した。受験生や保護者の反応が良く、説明会等の継続率が上がった。また第3回入試説明会と直前対策説明会は、体育館の寒さ対策と感染予防対策のため、参加者を普通教室に入れ、Zoomによるオンライン型の説明会を行った。
- ・コロナ禍のため、当初の予定よりもオープンキャンパスの実施時期を遅らせ、従来行っていたUTフェスタの要素も取り入れた内容で実施をした。クラブ体験に加え、上宮学園中学校よりお借りしたiPadを駆使して、本校のICT授業を参加者全員に受けしてもらい、本校の魅力を十分に伝えることが出来る内容であった。例年のオープンキャンパスと比べて、参加者数が増加した。
- ・コロナ禍での入試イベントにおいては、感染予防を最善に留意し、参加人数の制限やオンライン配信等、社会情勢に応じた形での実施となった。外出しにくい状況や様々な制約のため、全体としては参加者人数が減少傾向にあるが、来校した参加者の満足度は高いものと思われる。

○今後について

- ・オープンキャンパスの回数を1回から3回に増やし、本校に来校できる機会を作る。
- ・内容については、年々充実したものになっており、より生徒を全面に押し出せるような工夫を凝らしたい。
- ・様々なイベント案内をICTツール（Web、アプリ）の活用により、参加組数を増やしていくべく工夫する。

② 塾対象説明会・中学校対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象入試説明会	9月10日（木）	69塾	-41塾
中学校対象説明会	9月18日（金）	8校	-12校

○総評

- ・塾対象説明会では、上宮太子を御贔屓にくださる塾の参加が多くなる為、参加者の雰囲気は良いものであった。コロナ対策として、多目的教室の密を避けるために参加人数を72名までに制限し、オンラインでの中継も行った。説明会の内容としても本校の売りである生徒の様子を紹介しやすいので、その分でも好評であった。
- ・中学校対象説明会は今年度、オンラインのみで実施した。参加者の殆どは近隣校であった。本校の魅力や雰囲気を感じてもらうのはやはり来校してもらうことが望ましいので、この点については次年度に向けた課題である。
- ・参加者された先生方に対してアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く、今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

○今後について

- ・参加された先生方からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、生徒をうまく登場させる内容を今後も盛り込んでいきたい。
- ・実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。
- ・3年に1度の割合で参加塾の裾野を広げるためにホテルやホールにて実施している。参加塾数を考えるとホテルやホールでの実施が望ましいが、コロナ禍では実施が厳しく、また多くの人が集まるイベントは自粛傾向にある。今後も状況に応じて実施場所を検討していきたい。

③ 私学展

	実施日	参加塾数	増 減
私学展	8月14日（金）～16日（日）	75組	-109組

○総評

- ・コロナ禍での実施のため、参加者は時間制限及び人数制限の中での実施であった。このような状況での実施のため、例年より参加組数は減少した。
- ・私学展はブースの見た目がかなり集客に影響するが、映像モニターを使った統一感のあるブースを作ったこともあり、ブースに座らなくとも受験生の目には上宮太子が印象に残ったのではないかと思われる。ただソーシャルディスタンスをとった上でアクリル板越しかつ、時短説明が求められたため、離れた距離感でどこまで参加者の心を掴めたのかわからない状態であった。

○今後について

- ・より目に留まりやすいブースを作ることが大切であるので、次年度はICTツールをさらに活用したいと考えている。
- ・資料コーナーを訪れる受験生が多いので、資料コーナーからブースに導く方法を検討する。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業者数が20名減少したにもかかわらず、全体の合格数は80程増加した。

今年度のべ493（卒業者数188名）、昨年度のべ411（卒業者数208名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格数は減少した。

国公立大学合格者数：今年度18（現役17・過年度1）

昨年度21（現役18・過年度3）

当初目標は現役14以上であった。昨年度より合格数は減少したものの目標に達することができた。

また、特進コースの人数の過半数は超えており、おおむね満足できる結果であったと言える。

○私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格数は変わらず、産近甲龍の合格数は 8 増加した。その結果、関西 8 私大合わせた合格数は 8 増加した。

従来から言われている安全志向の生徒・保護者が目立ち、公募推薦、一般入試に挑戦する生徒は多くはなかった。総受験数も減少した。

関西 8 私大合格者数

今年度 108 名（関西 5・関西学院 4・立命館 3・京産 4・近畿 85・龍谷 7）

昨年度 100 名（関西 9・関西学院 2・立命館 1・京産 6・近畿 64・龍谷 18）

○31 期生の進学状況（卒業生数 188 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…157 名 短期大学・短期大学部進学者数…7 名

専門学校進学者数…18 名 就職等…2 名 進路未決定…4 名

（内訳：総合進学文系 1 名、特進文系 1 名、特進理系 2 名）

現役合格率 98.9%（昨年度 96.5%）、現役進学率 97.8%（昨年度 96.0%）

連携・指定校推薦入試枠 636 名分のうち、受験者数 44 名（総合進学コース在籍者の 27.3%）

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は微減。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 624 名分中、

利用者（受験者）数は 50 名（総合進学コース在籍者の 29.0%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西学院大学に一般選抜で合格。

1 名（実数）が京都産業大学に一般選抜で合格。

7 名（実数）が近畿大学に学校推薦型（公募制）・一般選抜で合格。

1 名（実数）が龍谷大学に一般選抜で合格。

（昨年度実績）総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西学院大学に一般入試で合格。

2 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

4 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

3 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR や総合的な探究の時間を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、大学入学共通テストの受験、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる総合型選抜・指定校推薦入試からの脱却
- ・家庭学習の推進
- ・模試の事前・事後指導
- ・Find! アクティブラーナーを活用した授業改善

■上宮太子高等学校 令和3年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数188名)

【4月16日現在】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
大阪教育大	3	3	0	0	3	3
奈良教育大	2	2	0	0	2	2
滋賀大	0	0	1	1	1	1
鳥取大	1	1	0	0	1	1
佐賀大	1	1	0	0	1	1
鹿児島大	2	2	0	0	2	2
国立大計	9	9	1	1	10	10
公立大学						
福山市立大	1	1	0	0	1	1
奈良県立大	2	2	0	0	2	2
公立鳥取環境大	2	2	0	0	2	2
下関市立大	2	2	0	0	2	2
長崎県立大	1	1	0	0	1	1
公立大計	8	8	0	0	8	8
国公立大計	17	17	1	1	18	18

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
開関同立						
関西大	5	4	0	0	5	4
関西学院大	4	1	0	0	4	1
同志社大	0	0	0	0	0	0
立命館大	3	2	0	0	3	2
開関同立計	12	7	0	0	12	7
産近甲龍						
京都産業大	4	3	0	0	4	3
近畿大	85	29	0	0	85	29
甲南大	0	0	0	0	0	0
龍谷大	7	5	0	0	7	5
産近甲龍計	96	37	0	0	96	37

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
常磐会短	1	1	0	0	1	1
白鳳短	6	6	0	0	6	6
武庫川女大短	2	1	0	0	2	1
短期大学計	9	8	0	0	9	8

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
大阪医療福祉専	1	1	0	0	1	1
ハートランドしぎさん看護専	1	1	0	0	1	1
ベガス大阪南看護専	2	2	0	0	2	2
その他専門学校等	15	15	3	3	18	18
専門学校等計	19	19	3	3	22	22

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
京都女子大	1	1	0	0	1	1
武庫川女子大	3	1	0	0	3	1
関西外国語大	1	1	4	1	5	2
大阪経済大	7	5	1	1	8	6
大阪工業大	10	8	0	0	10	8
佛教大	4	2	0	0	4	2
畿央大	3	2	0	0	3	2
摂南大	48	21	1	1	49	22
神戸学院大	7	3	0	0	7	3
追手門学院大	9	7	0	0	9	7
桃山学院大	51	12	1	1	52	13
桃山学院教育大	4	2	0	0	4	2
大阪体育大	1	1	0	0	1	1
大和大	5	3	0	0	5	3
甲南女子大	12	6	0	0	12	6
大阪女学院大	2	2	0	0	2	2
大阪樟蔭女子大	11	5	0	0	11	5
関西医大	1	1	0	0	1	1
森ノ宮医療大	1	1	0	0	1	1
関西医療大	3	2	0	0	3	2
大阪物療大	1	1	0	0	1	1
藍野大	1	1	0	0	1	1
神戸医療福祉大	1	1	0	0	1	1
大阪芸術大	5	5	0	0	5	5
京都美術工芸大	1	1	0	0	1	1
京都橋大	3	3	0	0	3	3
京都先端科学大	1	1	0	0	1	1
天理大	4	4	0	0	4	4
奈良大	1	1	0	0	1	1
帝塚山大	20	9	0	0	20	9
奈良学園大	2	2	0	0	2	2
酪農学園大	1	1	0	0	1	1
京都ノートルダム女子大	1	1	0	0	1	1
羽衣国際大	1	1	0	0	1	1
大阪産業大	15	7	0	0	15	7
大阪電気通信大	15	11	0	0	15	11
大阪大谷大	2	2	1	1	3	3
四天王寺大	6	6	0	0	6	6
帝塚山学院大	5	3	0	0	5	3
阪南大	26	9	0	0	26	9
大手前大	3	3	0	0	3	3
大阪学院大	14	4	0	0	14	4
大阪経済法科大	34	2	0	0	34	2
関西国際大	2	2	0	0	2	2
関西福祉科学大	3	3	1	1	4	4
太成学院大	3	3	0	0	3	3
大阪人間科学大	1	1	0	0	1	1
東大阪大	0	0	1	1	1	1
東北福祉大	2	1	0	0	2	1
至誠館大	1	1	0	0	1	1
その他の私立大学計	359	176	10	7	369	183
私立大学計	476	228	10	7	486	235

iv 入試関係

	コース	募集人員	専・併		志願者数		合格者数		手続者数		
			専願	併願	男子 女子	合計	男子 女子	合計	男子 女子	合計	
I 次	特進I類	約60名	専願		男子 12 女子 6	18名	男子 10 女子 6	16名	男子 10 女子 6	16名	
			併願		男子 111 女子 85	196名	男子 81 女子 67	148名	男子 7 女子 3	10名	
	専願			男子 20 女子 18	38名	男子 17 女子 15	32名	男子 17 女子 15	32名		
	併願			男子 54 女子 38	92名	男子 58 (15) 女子 41 (7)	99名 廻し22名 を含む	男子 8 (1) 女子 3 (0)	11名 廻し1名 を含む		
I 次	総合進学	約105名	専願		男子 44 女子 22	66名	男子 47 (5) 女子 25 (3)	72名 廻し8名 を含む	男子 47 (5) 女子 25 (3)	72名 廻し8名 を含む	
			併願		男子 49 女子 40	89名	男子 66 (19) 女子 51 (11)	117名 廻し30名 を含む	男子 5 (1) 女子 8 (0)	13名 廻し1名 を含む	
I ・ 5 次	特進I類			専願		男子 1 女子 0	1名	男子 0 女子 0	0名	男子 0 女子 0	0名

○総評

今年度入試に於いては、専願者が減少（-17）し、併願者が増加（+50）した。

専願者の減少については、人口の減少が影響したこともあるが、コロナ禍で説明会などを開催することができず、上宮太子を訪れる保護者や生徒が激減したことで受験生が減ったとみている。

特に、特進I類コースの専願者の減は、共通テスト及びコロナ禍での影響と、上宮太子を受験する層の生徒たちの国公立大学離れにより、特進I類よりもII類・総合に受験生が流れたと思われる。それでも全体の受験者数が昨年度より増加したのは、判定基準に実力テストやSSだけでなく、中3の定期考査や評定を使用したことが影響していると思われる。

ただし、併願者の戻り率が減少。大阪の公立高校の定員数の減と、奈良の公立高校の定員数の歩留まりにより奈良県の受験者が多い上宮太子が大きく影響を受けたと考えられる。

受験生の学力レベルは、昨年に続き各コースのラインを上げたので入試では高成績をあげている。

競合する他校の動向としては、四天王寺東高校の専願者増（+53）が特に目立っていた。

四天王寺東は、立地も良く設備が充実し、更に大学が付属しており上宮太子よりラインが-20点である。阪南大学は校舎・設備が良く、大学が付属しており、9教科評定のA判定を29としている。

初芝富田林は、豊富な進学実績を持っているが、一昨年度よりラインを下げてきている。

このまま何も手を打たなければ受検生を取られてしまう。

○今後について

上宮太子を広く知ってもらうための広報活動

- ・ online 説明会・学校見学・校内説明会などに参加してもらえるように働きかける。
- ・ 学校案内パンフレット、リーフレット、HP、インスタ、YouTubeなどを有効利用する。
- ・ 校外で知り得た情報や、上宮太子がどう見られているかなどを校内の先生方へ伝える。
- ・ 校内での情報を、塾・中学・保護者・中学生に発信する。特に生徒を送ってくれた塾・中学には詳細に生徒の様子を伝え、きめ細やかな指導をアピールする。
- ・ 保護者・生徒の国公立に対するこだわりが薄くなってきている中、総合進学での人数確保のために、公立高校よりも数の多い指定校数をアピールする。
- ・ 都会の学校には、校舎・施設・設備面ではかなわないが、自然豊かで聖徳太子ゆかりの地である太子町にあって、緑と広大な敷地の中、伸び伸びと充実した高校生活を送れることをアピールする。
- ・ 長期的には、地元で愛される学校になることを目標に、役場や、地元企業・芸術大学などと連携をとって太子ブランドを構築して、上宮太子にきたらこんなことができるというものを見つけること。
- ・ 今年は中学生が IPAD などを持っているので、学校紹介 VTR を作成して中学校に持参し、クラウド上に置いてもらっていつでも生徒が見れる状態にしておく。
- ・ 卒業生のクチコミの影響は大きいので、インスタの利用や、先輩の言葉などを卒業中学や卒塾に届けることを考える。
- ・ 広報と連携をとりながら、3コースの特徴や上宮太子のアピールポイントを明確にして、適切な広報活動を行う。
- ・ 重点地域を中心に手厚い訪問を心がける。

v 施設等整備関係

- ・ アトリウム（中庭）外壁リニューアル工事
- ・ 体育館へのネットワーク敷設工事（体育館より行事等のオンライン配信が可能となる）
- ・ 普通教室への AppleTV 設置（卒業記念品として。教員 iPad の画面をプロジェクタで共有）

vi 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。前年度の総括の学校関係者評価委員会は7月に実施した。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部には、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

① 教職員研修会

コロナ禍による度重なる行事の変更、また感染症予防の観点から、昨年度は外部講師を招いての教職員研修会は実施出来ていない。ただ、校内研修として、4月の臨時休業期間の当初よりICT教育推進委員会が中心となり、オンライン授業の教授法に関する校内研修を行い、時には動画の配信によって全教員が研鑽を積んだ。これにより5月からは、全授業をオンライン配信することができた。コロナ禍においても全教職員が一丸となり、「学びを止めない」指導体制を維持することができた。

② 特筆すべき行事

・【海外語学研修】

新型コロナウイルス感染拡大を受け、全ての海外語学研修は中止となった。例年であれば以下の語学研修を実施している。

〈イギリス語学研修（ACEプログラム）〉 7月下旬～8月上旬 対象:1～3年生 希望制
資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

〈カナダ語学研修〉 7月下旬～8月中旬 対象:1～3年生 希望制

本校にとって今年度、新規の語学研修として導入したものである。自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修であった。

〈ニュージーランド ターム留学〉 7月下旬～9月下旬 対象:1～3年生 希望者

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

〈ニュージーランド語学研修〉 3月下旬～4月上旬 対象:1～2年生 希望者

・【校内語学研修】

〈イングリッシュワークショップ〉

3月17～18日に外部講師を招き、1・2年生全員を対象に英会話講習会を実施した。少人数のグループにネイティブの講師が1名着付く。コロナ禍のため、マスク着用でソーシャルディスタンスをとりながら、5コマ（1コマ45分）を実施した。講師がローテーションすることにより、各コマの雰囲気が変わり充実した講習会となった。

・【修学旅行】

第2年生の修学旅行は当初12月上旬にドイツ方面を予定していたが、コロナの影響により国内に行先が変更となった。コロナ禍で予断を許さない中ではあったが、3月26日（金）～29日（月）の3泊4日の行程で、北海道方面（札幌・小樽・旭川）への修学旅行を無事に実施できた。

・【聖徳書道展】

令和2年度で第13回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和2年度は約4000点の応募作品を得た。今年度は1日型で10月4日（日）に開催し、513名の参加があった。なお例年実施している「書のパフォーマンス」と「表彰式」は密を避けるため、各教室にオンライン配信を行なった。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1（令和3年3月現在）

8割以上の生徒がクラブに所属(81.0%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

令和3年 3月 インターアクトクラブ 発足

ボランティア部・吹奏楽部・生徒自治会役員が連合して組織し、太子ロータリークラブの賛助を受けて活動する。

令和3年 3月末をもって、拳法部は「拳法同好会」として活動する。

③ 部活動の主な成績

書道部

「書の甲子園」第29回 国際高校生選抜書展 入選 平川 汐南（3年）・栗栖 歌音（2年）
森 楓花（1年）・森下 香春（1年）
第59回 伊勢神宮奉納書道展 伊勢神宮崇敬会賞 平川 汐南（3年）
伊勢賞 三嶋 柚心（1年）

軽音楽部

第13回 全国高等学校軽音フェスティバル 本選出場

総合探究部

第9回 近畿高校囲碁選手権 7位 神鳥 鷹太（2年）
第41回 大阪府高等学校芸術文化祭囲碁部門 優勝 神鳥 鷹太（2年）
第38回 大阪府高等学校囲碁新人大会 準優勝 神鳥 鷹太（2年）
第44回 大阪府高等学校囲碁選手権 3位 神鳥 鷹太（2年）

ダンス部

第14回 日本高校ダンス部選手権 近畿・中国・九州大会 ストリートダンス協会賞 受賞

陸上競技部

大阪高校陸上競技種目別選手権大会 円盤投げの部 7位 辻 善樹（3年）

ラグビー部

第72回 近畿高等学校ラグビーフットボール大会大阪府予選 Dブロック ベスト4

硬式野球部

令和2年大阪府高校野球大会 ベスト16

サッカー部

高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2021 OSAKA 3部リーグ Aグループ9位

バドミントン部

大阪高校バドミントン選手権大会 シングルスⅡ部 ベスト16 池田 佳弥 (2年)

硬式テニス部

第29回阪南地区高校テニストーナメント 女子シングルス 優勝 森 一葉 (2年)

吹奏楽部

第30回管弦打楽器ソロコンテスト 大阪南地区大会 銀賞 上野 楓華 (2年)

viii防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

エマージェンクッキー2日分 おいしいごはん2日分 レスキューシート

飲料水500ml2本 簡易トイレカプセル5回分 小箱

ixその他

① 体育大会・上宮祭(文化祭)が新型コロナウイルス感染拡大のため、開催を中止した。

代替行事として8月31日、9月1日に「UTすぼかるふえす2020」を実施し、生徒会主催で体育科・教務部と連携して行事をすすめた。

1日目は「スポーツの部」として体育大会での4色を生かしたチーム対抗の球技大会を行った。また2日目は「カルチャーの部」としてフェニーチェ堺にて、文化部の発表に加え、チーム対抗で合唱部門・映像部門・チームフラッグ部門の3部門で出演し、2日間にわたるチーム対抗の総合優勝を決めた。

② インターアクトクラブが令和2年11月に発足し、令和3年3月に認証状伝達式を挙行了した。

インターアクトクラブは、ボランティア部・吹奏楽部・生徒自治会役員により組織され、太子ロータリークラブの賛助を受けて活動する。

③ 生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。

(令和2年度の活動実績)

保健委員会・整美委員会 昼休み・放課後の消毒作業、消毒のよびかけ

風紀委員会 登校時のあいさつ運動

新聞委員会 上宮太子ニュースの原稿執筆

放送委員会 昼休みの放送

図書委員会 図書室の運営(貸し借り手続き、図書整理など)

4. 上宮学園中学校

i 広報

○入試結果

1次一般学力型A・B、2次一般学力型、適性検査型、自己アピール型の全体で、
志願者数 356 名、受験者数 345 名、合格者数 295 名、入学者数 107 名

【内訳】

1次一般学力型A	: 志願者数 92 名、入学者数 75 名
1次一般学力型B	: 志願者数 120 名、入学者数 16 名
2次一般学力型	: 志願者数 121 名、入学者数 11 名
適性検査型	: 志願者数 22 名、入学者数 4 名
自己アピール型	: 志願者数 1 名、入学者数 1 名

*前年度（2020年度）入試結果

1次・2次一般学力型、適性検査型、自己アピール型の全体で、
志願者数 324 名、受験者数 304 名、合格者数 243 名、入学者数 112 名

【内訳】

1次一般学力型A	: 志願者数 101 名、入学者数 86 名
1次一般学力型B	: 志願者数 100 名、入学者数 13 名
2次一般学力型	: 志願者数 109 名、入学者数 9 名
適性検査型	: 志願者数 13 名、入学者数 3 名
自己アピール型	: 志願者数 1 名、入学者数 1 名

前年度より1次入試に設定している午後入試（一般学力型B）を引き続き実施。

コロナ禍の影響で受験者数の減少が心配ではありましたが、受験者数を大幅に減らすことない入試となりました。午後入試が定着するよう次年度以降も引き続き実施したいと思います。

（中学入試は「コロナ・インフルエンザによる追試」も追試日を設定しましたが受験は0名でした。）

○入試説明会・プレテスト

前年度3回実施の説明会を4回で実施。参加組数は407組。

※説明会後の個別相談は実施せず、オンライン個別相談会を実施（6組の参加）

例年2回実施の公開授業見学会はコロナ禍の影響で実施せず

2回実施のプレテストは一般学力型441名、適性検査型261名。

*2020年度入試説明会・公開授業見学会・プレテスト

説明会（3回）317組、公開授業見学会（2回）参加児童164名、

プレテスト（2回）一般学力型381名、適性検査型264名

○塾対象説明会について

高校の内容と同じ

○私学展について

高校の内容と同じ（例年2日間で3日間に 中学受験の相談は21名）

I. 教務関係

(1) 学校評価の総括から () 内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (C)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (B)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (A)
- ④ 中高教務の連携 (B)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ 六カ年を見据えた教育の充実 (B)
- ⑧ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (B)
- ⑨ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 (B)
- ⑩ 保護者会との協力 (C)
- ⑪ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(総括)

令和2年度はコロナ禍が学校行事に大きく影響した。今年度は募集人数を超える(112名)新入生が入学したが、4月、5月は学校休業で1年生においては、中学校生活のスタートにあたり、多くの行事が中止となり、その影響を心配したが、大きな事故もなく、順調に終えることが出来たと思う。また、1年生から、新しい制服となったが、混乱もなく、新しい学園中学校になじんでいっていると思う。残念であるが、シンガポール海外研修や、学習強化プログラム(全学年)、1・2年合同スキー実習などがすべて中止となり、生徒たちの心身の発達に影響がないか心配である。令和3年度もまだコロナ禍の影響はぬぐい切れないところがあると思うが、感染予防を徹底しながら、少しでも行事を行い、生徒のために、学校行事の充実を考えていきたい。ただ、教員の働き方改革に伴い、勤務時間と学校行事(宿泊が伴うもの)の両立を考えていきたいと思う。

(1) 祖山参拝、勉強合宿

- ① 中1は祖山参拝は実施できなかった。令和3年度の4月に規模を縮小し、実施した。
- ② 中1、中2、中3が行う夏期勉強合宿(2泊3日)は宿泊をやめ、校内で勉強合宿と同じ旨で実施する予定であったが、7月は通常授業となったため、実施はできなかった。

(2) 中3海外研修旅行

今年度も、シンガポール・マレーシアで実施予定であったが、コロナ禍のため、国内研修に変更した。国内研修は3月に岡山県、香川県で実施予定であったが、政府より緊急事態宣言が

出たため、中止となった。その代替えとして、2日間で兵庫県のネスタリゾート神戸と、なんばグランド花月劇場見学・ホテルでのテーブルマナーを実施した。

(3) スキー実習

中1、中2の全員が例年通り、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施する予定であったが、コロナ禍の影響で中止となった。

(4) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育（神戸鈴蘭台スカイアドベンチャー、日帰り）は中止

② 中2：5月に和歌山県日置川町における民泊（2泊3日）は中止

12月に思春期教室は例年であればバルナバ病院で実施していたが、コロナ禍のため、病院より学校へ講師が出張していただき、講堂で行った。

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館は時期を変更し、2月に実施。

10月に民族博物館での研修を実施。

近大英語村（新型コロナウイルス感染の影響の為中止）

2年：上町台地において班別自主研修は時期を変更し、3月に実施。

10月に近ツ飛鳥での研修及び、清掃活動の実施。

近大英語村（新型コロナウイルス感染の影響の為中止）

3年：海外研修旅行の事前学習として、ECC 英語学院でグローバル体験は実施。

ライフプランニング授業（ソニー生命の監修による）は中止

吉本興業と大阪市が実施しているB&Sを実施。

II. 課外活動関係

コロナ禍のため、多くの試合が中止となった。

◎卓球部…全国選抜大会出場 校内にコロナ陽性者がでたため、棄権。